

平成 28 年 4 月 15 日

株式会社トマト銀行
株式会社みずほ銀行
トマトリース株式会社
みずほキャピタル株式会社

「トマト 6 次産業化応援ファンド」第 2 号案件
株式会社ビナン食販への出資決定について

株式会社トマト銀行、株式会社みずほ銀行、株式会社農林漁業成長産業化支援機構、トマトリース株式会社、みずほキャピタル株式会社が出資し、平成 26 年 1 月に設立した「トマト 6 次産業化応援ファンド」は、株式会社ビナン食販（代表取締役会長 安藤道弘、代表取締役社長 安藤 弘幸）に対して 1,000 万円の出資を行うことを決定いたしましたので、お知らせいたします。

なお、本件は本ファンドにおける第 2 号案件となります。今後とも、本ファンドは地域の 6 次産業化事業体への出資・経営支援を通じ、地域経済の活性化に貢献してまいります。

記

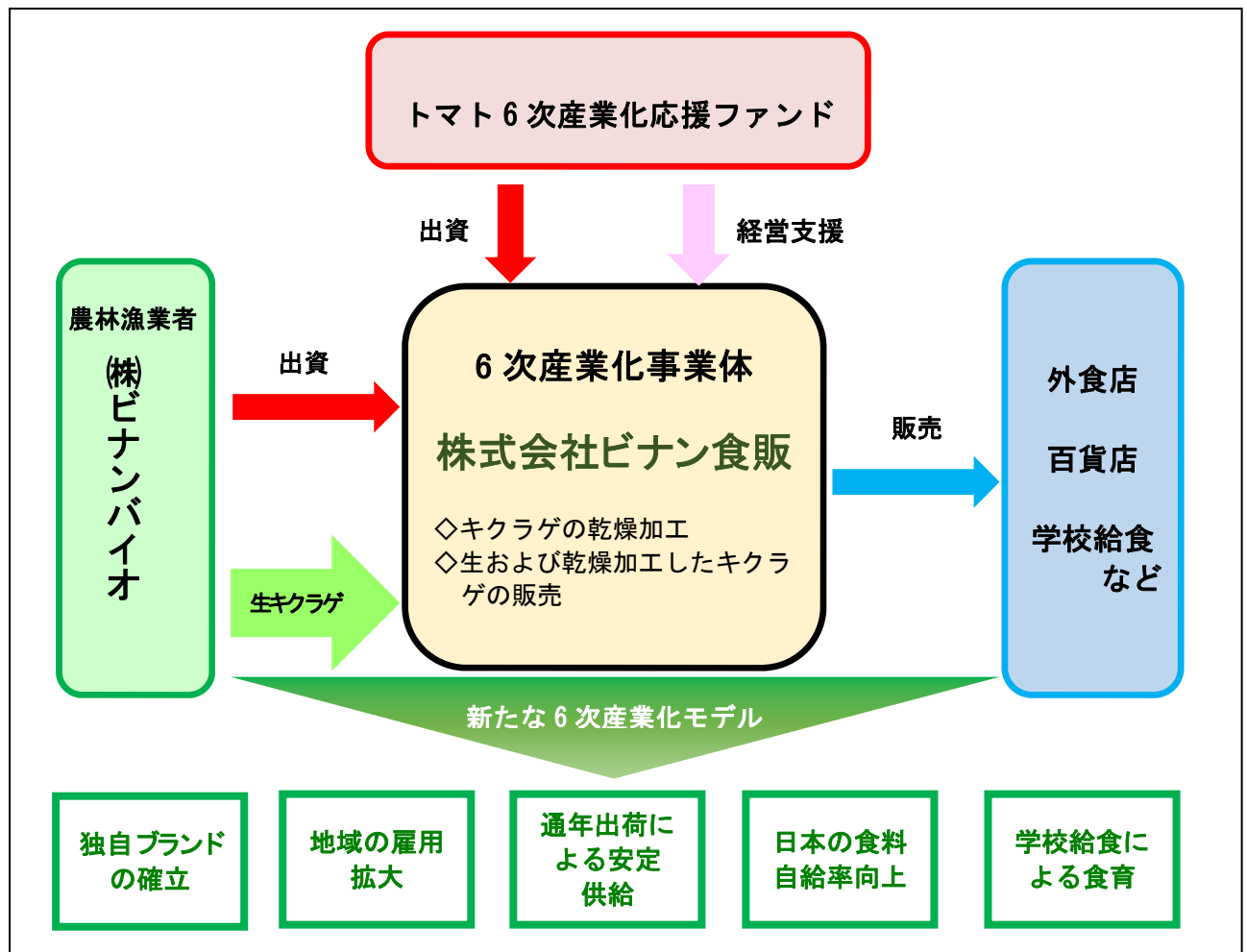
＜出資案件の概要＞

【株式会社ビナン食販】

代 表 者	代表取締役会長 安藤 道弘、代表取締役社長 安藤 弘幸
所 在 地	岡山県総社市清音柿木 219 番地 1
設 立	平成 26 年 12 月 22 日
出 資 決 定 額	1,000 万円
株 主 ・ 出 資 額	株式会社ビナンバイオ（1 次）1,000 万円 トマト 6 次産業化応援ファンド（本件）1,000 万円
事 業 内 容	・ キクラゲ（アラゲキクラゲとシロキクラゲ）の乾燥加工 ・ 生および乾燥加工したキクラゲの販売
事 業 の 目 標	安心安全・高品質なキクラゲを、年間を通して安定供給し、キクラゲの消費拡大を推進するとともに日本の食料自給率向上に貢献する。

以 上

<ご参考①：事業スキーム図>



<ご参考②：本件の6次産業化に至る経緯について>

- ・工業用ゴム製品を製造する株式会社ビナンは、新規事業として農業分野への進出を計画し、平成24年にバイオ事業を設立してキクラゲ栽培の研究と生産を開始しました。
- ・研究と栽培に関してはトマト銀行の仲介で岡山理科大学と連携し、平成25年10月には国産のシロキクラゲの量産技術を確立しました。
- ・キクラゲの生産技術が確立したことによりバイオ事業を分社化し、平成26年にキクラゲを栽培する株式会社ビナンバイオおよび加工販売を行う株式会社ビナン食販を設立しました。
- ・現在、キクラゲ市場は95%以上を輸入品が占めていますが、昨今外食産業では食材を国産に切り替える動きが出てきており、株式会社ビナン食販は外食チェーンを中心に販売を拡大していく予定です。

※1 シロキクラゲは、透明感のある白い花びら状のキノコで、中華、薬膳料理に用いられる高級食材です。楊貴妃が美容と健康のためにシロキクラゲを好んで食べたと言われています。

※2 アラゲキクラゲは、花びら状のキノコで、歯ごたえのあるゼラチン質の肉質から、中華料理の食材としては定番のキノコです。

＜ご参考③：本件に関連する企業の概要＞

【株式会社ビナン】

代 表 者	代表取締役会長 安藤 道弘、代表取締役社長 安藤 弘幸
所 在 地	岡山県倉敷市水江 1601 番地
設 立	昭和 52 年 9 月 22 日
事 業 内 容	工業用ゴム製品製造

【株式会社ビナンバイオ】

代 表 者	代表取締役会長 安藤 道弘、代表取締役社長 安藤 弘幸
所 在 地	岡山県倉敷市水江 1601 番地
設 立	平成 26 年 12 月 17 日
事 業 内 容	キクラゲの開発、生産

＜ご参考④：トマト 6 次産業化応援ファンドの概要＞

名 称	トマト 6 次産業化応援投資事業有限責任組合 (略称：トマト 6 次産業化応援ファンド)		
フ ァ ン ド 総 額	1,000 百万円		
出 資 者 内 訳	株式会社農林漁業成長産業化支援機構	500 百万円	
	株式会社トマト銀行	390 百万円	
	株式会社みずほ銀行	100 百万円	
	トマトリース株式会社	5 百万円	
	みずほキャピタル株式会社	5 百万円	
組 合 契 約 締 結 日	平成 26 年 1 月 17 日		
フ ァ ン ド 運 営 会 社	トマトリース株式会社、みずほキャピタル株式会社		
存 続 期 間	15 年		